

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東北大学
設置者名	国立大学法人東北大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	人文社会学科	-	41	33	-	74	13	
教育学部	教育科学科	-		28	-	69	13	
法学部	法学科	-		26	-	67	13	
経済学部	経済学科	-		28	-	69	13	
	経営学科	-			-	69	13	
理学部	数学科	-		4	4	49	13	
	物理学科	-			0	45	13	
	宇宙地球物理学科	-			17	62	13	
	化学科	-			32	77	13	
	地圏環境科学科	-			2	47	13	
	地球惑星物質科学科	-			0	45	13	
	生物学科	-			24	69	13	
医学部	医学科	-		-	165	206	19	
	保健学科 (看護学専攻)	-			102	143	13	
	保健学科 (放射線技術科学専攻)	-			68	109	13	
	保健学科 (検査技術科学専攻)	-			86	127	13	
歯学部	歯学科	-		-	147	188	19	
薬学部	創薬科学科	-		4	5	50	13	
	薬学科	-			57	102	19	
工学部	機械知能・航空工学科	-		13	14	68	13	
	電気情報物理工学科	-			41	95	13	
	化学・バイオ工学科	-	2		56	13		
	材料科学総合学科	-	10		64	13		
	建築社会環境工学科 (社会基盤デザインコース、水環境 デザインコース、都市システム計画コース)	-	11		65	13		
	建築社会環境工学科 (都市・建築デザインコース、都市・ 建築学コース)	-	15		69	13		

農学部	生物生産科学科 (植物生命科学コース)	-	8	18	67	13	
	生物生産科学科 (資源環境経済学コース)	-		11	60	13	
	生物生産科学科 (応用動物科学コース)	-		16	65	13	
	生物生産科学科 (海洋生物科学コース)	-		15	64	13	
	応用生物化学科 (生物化学コース)	-		14	63	13	
	応用生物化学科 (生命化学コース)	-		14	63	13	
(備考)							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/education/01/education0111/R03_kamoku_kyomu.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東北大学
設置者名	国立大学法人東北大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

東北大学ホームページへの掲載
<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/02/disclosure0201/>
 東北大学役員名簿（役職・氏名・任期・経歴・選任理由）

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	文部科学省職員	R2.4.1 ～ R4.3.31	人事労務・環境安全・ 施設担当
常勤	内閣府職員	R2.4.1 ～ R4.3.31	産学連携担当
非常勤	三越伊勢丹ホールディングス取締役（社外）	R2.4.1 ～ R4.3.31	データ戦略・社会共創 担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東北大学
設置者名	国立大学法人東北大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスは、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき構成される授業科目の内容を保証するものであることから、全学共通の「東北大学シラバス作成基準」を定め、綿密な授業設計に基づいて、授業の目的、学修の到達目標、授業の内容・方法、成績評価の各要素を中心に、「学生の学修を支援する」視点に立ち、以下の点に留意して作成することとしている。</p> <p>(1)この授業科目を履修することにより期待される学修成果を到達目標として学生に明示する。</p> <p>(2)到達目標に達するための具体的な授業内容と方法、授業時間外学修について明示する。</p> <p>(3)到達目標の達成水準を判断する手続きについて、成績評価方法として具体的に示す。</p> <p>シラバスには、授業科目名、科目ナンバリングコード、曜日・時限、受講対象、担当教員、開講セメスター等のほか、原則として次の項目を明示することとしている。</p> <p>(1)授業題目</p> <p>(2)授業の目的と概要</p> <p>(3)学修の到達目標</p> <p>(4)授業の内容・方法と進度予定</p> <p>(5)成績評価方法</p> <p>(6)教科書・参考書</p> <p>(7)授業時間外学修</p> <p>(8)使用言語</p> <p>(9)実務・実践的授業の別</p> <p>(10)その他</p> <p>シラバスの作成には学務情報システムを利用しており、次年度の開講授業科目が決定した後の12月から2月にかけて、授業担当教員が前述の各項目について入力を行い、作成したシラバスは3月下旬以降、学務情報システム(ログイン不要)や各学部Webサイトにおいて公表している。</p> <p>また、成績評価の基準についても、全学共通の「成績評価区分」を定めており、本学のWebサイトで公表している。</p> <p>なお、各学部の専門教育科目は各学部規程及び履修内規に、全学教育科目は全学教育科目等規程で定めており、本学のWebサイトで公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>東北大学全学教育及び各学部ホームページへの掲載</p> <p>https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/education/01/education0103/</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

単位の認定は、シラバスに明示された成績評価の方法に従って、筆記試験やレポート、平常点等複数の方法により行っている。

学部・大学院共通の成績評価基準として「成績評価区分」を定め、到達目標の達成水準と成績評価の相互関係を明確に示している。

成績表示	評価等 ()内は点数の区分および到達目標の達成水準における目安)
AA	成績が特に優秀であるもの (90点～100点、到達目標を極めて優れた水準で達成している。)
A	成績が優秀であるもの (80点～89点、到達目標を優れた水準で達成している。)
B	成績が良好であるもの (70点～79点、到達目標を標準的な水準で達成している。)
C	成績が可であるもの (60～69点、到達目標を達成している。)
D	成績が不可であるもの (59点以下、到達目標に達していない。)
合格	成績が合格であるもの
認定	本学において修得した単位と認定したもの

また、全学教育科目では「全学教育科目の成績評価ガイドライン」を策定し、成績評価の考え方を示すことで厳格かつ適正な成績評価に努めている。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、学生の学習意欲を高め、適切な修学指導に資するとともに、厳格な成績評価を推進し、学びの質を向上させることを目的として、「東北大学におけるG P Aに関する申し合わせ」を定めている。

G P Aは、当該学期における学修の状況及び成果を示す指標としてのG P A（学期G P A）並びに課程在学中における全期間の学修の状況及び成果を示す指標としてのG P A（累積G P A）の二種類としている。

学期G P A及び累積G P Aの計算式は、以下のとおりであり、算出された数値の小数点第3位以下は切り捨てとしている。

【学期G P Aの計算式】

学期G P A = (当該学期に評価を受けた授業科目のG P × 当該授業科目の単位数)の合計 / 当該学期に評価を受けた授業科目の単位数の合計

【累積G P Aの計算式】

累積G P A = (課程在学中における全期間に評価を受けた授業科目のG P × 当該授業科目の単位数)の合計 / 課程在学中における全期間に評価を受けた授業科目の単位数の合計

また、各学部規程、各学部履修内規及び全学教育科目等規程に定める成績の評価に与えられるG P（Grade Point）は以下のとおりとしている。

成績の評価		G P
5段階評価	素点	
AA	100-90	4.0
A	89-80	3.0
B	79-70	2.0
C	69-60	1.0
D	59-0	0.0

G P A対象となる授業科目は、G Pが与えられる評価によって成績認定される授業科目としているが、実際にG P Aを算定する際には、各学部においてG P A利用の目的に照らし、適切な方法をもって選択し、又は除外することができる。

各学部（学科）では、算出したG P Aをもとに所属学生の成績分布状況を把握しており、成績不振の基準の一つとして、学生の修学指導に活用している。

また、大学間協定校への交換留学においては、派遣候補者の学内選考において、G P Aを評価項目の一部として、活用している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

東北大学ホームページへの掲載
<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/education/01/education0110/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

東北大学及び各学部では、学士課程におけるディプロマ・ポリシーを以下のとおり策定しており、本学の Web サイトにおいて公表している。

東北大学ディプロマ・ポリシー（学士課程）

東北大学では、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。

- ①専門分野に関する知識及び学問分野全体への興味関心と幅広い知識に基づく複眼的視野を有している
- ②教養ある社会人としての素養を備え、専門分野特有の技能を生かして社会に貢献できる
- ③グローバル社会において、指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持ち、基礎能力を備えている

東北大学文学部ディプロマ・ポリシー

東北大学文学部では、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。

- 1.人間とその言語や文化、社会や歴史に関する堅実な実証的知識および人間性への深い洞察に根ざした人文科学的知見を身につけている
- 2.専門分野の学問をとおして人間性に対する鋭敏な感受性と現実社会に対する透徹した認識を体得し、それを基盤として国際社会の発展に積極的に貢献しうる知性と行動力を備えている
3. 自立的かつ批判的な人間理解を追求し、現代社会が直面する様々な課題に積極的に貢献しうる

東北大学教育学部ディプロマ・ポリシー

東北大学教育学部の教育目標に沿って設定された授業科目を履修し、卒業要件以上の単位を修得して、「学士（教育学）」の学位（ディプロマ）を取得して卒業する。本学部では以下のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を定め、卒業に際して学生が身につけるべき力を明示している。

- ①教育に関する様々な専門領域の知識をふまえ、広い視野で教育を捉える力を身につけている。
- ②教育における深い洞察力を身につけている。
- ③自主的に課題を設定し、その課題解決に向けた企画・実践力を身につけている。

東北大学法学部ディプロマ・ポリシー

東北大学法学部では、次に掲げる教育目的に従い、全学教育科目の単位を 39 単位以上及び専門教育科目の単位を 90 単位以上（うち私法・公法科目 2 単位以上、基礎法科目 2 単位以上及び政治学科目 2 単位以上）を修得した学生について、学士の学位を授与する。

- ①教養ある国際市民としての素養を備え、法学・政治学の正確な基礎的知識を修得し、鋭い正義感と幅広い視野に基づき、社会に生起する問題を発見かつ分析し、利害の衝突を未然に防止し、あるいは紛争を解決することにより良き社会の実現に貢献する人材（法政ジェネラリスト）を養成する。
- ②法学・政治学における学術研究または高度専門職（法政スペシャリスト）となるために共通の前提となる基礎的知識・素養と幅広い見識を有する人材を涵養する。
- ③グローバル社会において、指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持ち、その基となる国際的視野とコミュニケーション能力を有する人材を輩出する。

東北大学経済学部ディプロマ・ポリシー

東北大学経済学部規程に定められた期間在学し、全学教育科目および専門科目の履修を通じて、本学部が教育理念・教育目標として掲げる経済に関する幅広く深い専門知識、課題探究力および国際的視野を身に付け、かつ、所定の単位を修得したと認められれば、卒業を認定し学士（経済学）の学位を授与する

東北大学理学部ディプロマ・ポリシー

理学各分野の基礎知識を習得し、大学院で高度な教育を受ける能力、また、理学の基礎知識を活用し、社会の広い分野において重要な役割を果たすことのできる能力を身につける。具体的には各学科の定める必修科目を含め、卒業要件を満たす単位数を修得すること。

東北大学医学部医学科ディプロマ・ポリシー

医学部医学科では、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。

- ①生命現象、人体構造並びに様々な疾患について、分子レベルから細胞・組織・器官・個体レベル、さらに地域・社会・国際レベルに及ぶ国際標準の知識を有している。未解明の事象に挑み創造的研究を行って先端領域を切り開き、成果を世界に発信する能力を有している。
- ②優れた倫理観と暖かい人間性を備え、科学的根拠に基づく医療を実践する基本的能力を習得している。地域に密着して医療を実践するとともに、国際社会に医療貢献する能力を有している。
- ③医療の実践と医学の研究を通して、我が国の医学研究、教育、医療を支えると共に、ワールドクラスの研究の推進、新しい学問の創造、人類への貢献を担う能力を有している。多職種間の連携・協調、学際的研究交流等を円滑に行うコミュニケーション能力とチームを率いるリーダーシップの素養を有している。

東北大学医学部保健学科ディプロマ・ポリシー

医学部保健学科では、次に掲げる目標を達成した学生に学士（看護学）または学士（保健学）を授与する。

- ①高度化、複雑化する医療技術に的確に対処しうる科学的かつ深い専門知識を有している。
- ②科学的根拠に基づく看護学・保健学・臨床医学及び医療技術を実践し、他の保健・医療等専門職と協働してチーム医療・チームケアの一員として参加する能力を有している。
- ③冷静、緻密な総合的判断の元に、優れた倫理観と豊かな人間性及び社会的使命感を持って保健・医療に貢献する能力を有している。

東北大学歯学部ディプロマ・ポリシー

歯学部は、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。

- (1) 豊かな教養と人間性に裏付けられた知的探究を行う能力を有している。さらに、学際的な解決を要する現代的諸課題に対応するための多様な視点と知識を有し、生涯にわたって自己研鑽を積む姿勢を身に付けている。
- (2) 分子から個体レベルまでの様々な階層における人体の構造・機能と疾患および生体材料、共生微生物叢、医療環境・制度に関する知識を有機的に結合させ、歯科医療に応用できる能力を有している。
- (3) 研究過程等を実践することで「科学する心」を育み、研究への理解や志向を有している。
- (4) 「一口腔一単位」、「全人的歯科医療」を基盤とし、患者中心で、科学的根拠に基づく安全な歯科医療を実践する能力を有している。
- (5) 国際社会の多様性を理解し、歯科医師として、歯学教育、研究、医療、行政を担い、人類の健康・福祉に貢献する志向を有している。

東北大学薬学部ディプロマ・ポリシー

【創薬科学科】

薬学部創薬科学科では、卒業までに全学教育および専門教育の履修を通して、教育理念に基づく以下の4つの目標を達成した学生に対し、学士（創薬科学）の学位を授与する。

- (1) 教養の涵養: 専門の基礎となる自然科学分野のみならず幅広い教養を習得し、豊かな人間性と倫理観を備えるとともに、地域・社会に貢献する使命感をもち、優れたリーダーシップを発揮する能力を有している。
- (2) 専門の修養: 生体の仕組みと疾患の原因を理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品の創製する能力、および医薬品に関する基礎的な学問を学び創薬科学の発展に寄与しうる能力を有している。
- (3) 国際感覚の鍛錬: 総合的な英語力、コミュニケーション力、および国際感覚を習得し、成果を世界に発信する能力を有している。
- (4) 真理の探究: 化学物質と生命の関わりの中において真理を探究し、新しい医薬品開発、および薬の適正使用に携わる研究、教育、衛生行政を支える研究心を備えている。

【薬学科】

薬学部薬学科では、卒業までに全学教育及び専門教育の履修を通して、教育理念に基づく以下の4つの目標を達成した学生に対し、学士（薬学）の学位を授与す

る。

- (1) 教養の涵養:薬学の基礎となる自然科学分野のみならず、幅広い教養を習得し豊かな人間性と倫理観を備えるとともに、地域・社会に貢献する使命感、優れたリーダーシップを発揮する能力を有している。
- (2) 専門の修養:生体の仕組みと疾患の原因を理解し、有効かつ安全な医薬品を創製する能力及び薬の専門家として医療を実践する能力を有している。
- (3) 国際感覚の鍛錬:総合的な英語力、コミュニケーション力及び国際感覚を習得し、成果を世界に発信する能力を有している。
- (4) 真理の探究:化学物質と生命の関わりの中において真理を探究し、薬学研究、教育、衛生行政を支える研究心とともに、薬の適正使用をはかる医療人としての使命感を備えている。

東北大学工学部ディプロマ・ポリシー

東北大学工学部は、世界を先導する研究者あるいは技術者を輩出することが社会から期待されている。このために、全学教育科目を所定の単位以上修得し、さらに工学部および所属する学科が定める所定の単位以上を修得することを通して、人類の持続的発展に貢献する自覚と展望、及び以下の知識と能力を身につけた学生に学士の学位を授与する。

1. 自然や人間・社会についての深い理解
2. 工学共通の基礎知識と各専門分野に関する基盤知識
3. データや事実に基づく的確な分析能力と論理的思考能力
4. 他者と共同で課題に取り組むためのチームワーク能力
5. 国際的な場で通用する基礎的な外国語能力
6. 発表内容に関する討論を行うためのコミュニケーション能力
7. 国際社会の一員としての広い視野
8. 自ら考え行動する能力

東北大学農学部ディプロマ・ポリシー

東北大学農学部では、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与します。

1. 農学を通じた社会的貢献
 - ① 食料、健康、環境に関する広範な知識と技術を理解・習得し、豊かな農学的思考と教養に基づく幅広い視野を持ち、社会に貢献できる能力を有している。
 - ② 高い倫理性を有し、科学技術の進展と、世界の持続的な社会の実現に寄与する能力がある。
2. 国際的な教養と汎用的技能
 - ① 全学教育で得た自然科学、人文科学、社会科学の基本的な知識をもとに、専門教育で農学における先端的な研究内容を理解する。
 - ② グローバル社会において、指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持つとともに、そのための基礎能力を備えている。
3. 専門分野の知識と研究能力
 - ① 食料、健康、環境に関する専門的知識を有し、研究実践に携わる能力を有する。
 - ② 日本語及び英語で適切に情報を収集し、それらを活用できる基礎的な語学力を身に付け、農学における先端的な研究内容を、説明できる能力を身に付けている。
 - ③ 自然科学分野、社会科学分野の高い知識と研究能力を基に、社会ニーズに応えて様々な問題の解決に主体的に取り組む社会のリーダーとなり得る。

卒業の認定に際しては、東北大学学部通則に定める修業年限期間（医学部医学科、歯学部、薬学部薬学科を除き4年、（医学部医学科、歯学部、薬学部薬学科は6年））在学し、かつ所定の授業科目を履修し、卒業に必要な単位を修得した者又は所定の授業科目を履修し、その試験に合格した者には、卒業を認め、学士の学位を授与している。

【学部別卒業要件単位数一覧】

学部名	学科名		卒業要件単位数
文学部	人文社会学科		126 単位
教育学部	教育科学科		125 単位
法学部	法学科		129 単位
経済学部	経済学科		125 単位
	経営学科		
理学部	数学科		124 単位
	物理学科		
	宇宙地球物理学科		
	化学科		
	地圏環境科学科		
	地球惑星物質科学科		
医学部	医学科		201 単位
	保健学科	看護学専攻	128 単位
		放射線技術科学専攻	127 単位
		検査技術科学専攻	127 単位
歯学部	歯学科		201 単位
薬学部	創薬科学科		143 単位
	薬学科		203 単位
工学部	機械知能・航空工学科		130 単位
	電気情報物理工学科		124 単位
	化学・バイオ工学科		127 単位
	材料科学総合学科		130 単位
	建築社会環境工学科 （社会基盤デザインコース、水環境デザインコース、都市システム計画コース）		125 単位
	建築社会環境工学科 （都市・建築デザインコース、都市・建築学コース）		
農学部	生物生産科学科（植物生命科学コース）		134 単位
	生物生産科学科（資源環境経済学コース）		
	生物生産科学科（応用動物科学コース）		
	生物生産科学科（海洋生物科学コース）		
	応用生物化学科（生物化学コース）		
	応用生物化学科（生命化学コース）		

卒業の認定に関する 方針の公表方法	東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東北大学
設置者名	国立大学法人東北大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	官報及び本学HPへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/02/disclosure0203/
収支計算書又は損益計算書	官報及び本学HPへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/02/disclosure0203/
財産目録	該当なし
事業報告書	本学HPへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/02/disclosure0203/
監事による監査報告(書)	本学HPへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/02/disclosure0203/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和2年度国立大学法人東北大学年度計画 対象年度:2020年度)
公表方法:東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/02/disclosure0202/
中長期計画(名称:東北大学ビジョン2030 対象年度:2018~2023年度)
公表方法:東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/vision/01/vision002030/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:東北大学ホームページへの掲載 https://www.bureau.tohoku.ac.jp/hyoka/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:東北大学ホームページへの掲載 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/hyoka/04/daijaku2/daijakuninsho.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
（概要） 東北大学文学部規程（抜粋） 第 1 条の 2 本学部は、人文社会科学的教養に基づく、人間性に対する鋭敏な感受性及び現実社会に対する透徹した認識を身に付け、国際社会の発展に積極的に貢献し得る、知性及び行動力を備えた人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
（概要） 東北大学文学部では、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。 1. 人間とその言語や文化、社会や歴史に関する堅実な実証的知識および人間性への深い洞察に根ざした人文社会科学的知見を身につけている 2. 専門分野の学問をとおして人間性に対する鋭敏な感受性と現実社会に対する透徹した認識を体得し、それを基盤として国際社会の発展に積極的に貢献しうる知性と行動力を備えている 3. 自立的かつ批判的な人間理解を追求し、現代社会が直面する様々な課題に積極的に貢献しうる
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
（概要） 東北大学文学部では、ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。 ① 多様な人間文化に関する基礎的知識を幅広く学習させ、専門の学問分野を深く学ぶことによって、人文社会科学的方法を理解し身につけるカリキュラムを提供する ② 国際化する社会に対応するために、二つ以上の外国語を習得し、実用的な国際的コミュニケーション能力を身につける授業を提供する ③ 教育方法の開発と教育システムの整備を進め、自らの課題を発見し、その解決に取り組むことを可能とする普遍的で創造的な思考能力と表現能力を身につける学習を推進する ④ 学習成果の評価とその結果の活用を通じて、人文社会科学的な専門的知識をもつ社会人あるいは大学院生として果たすべき使命を自覚させ、学生の確かな将来展望を築く自律的学習力を育成する
入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 http://www.tnc.tohoku.ac.jp/admission_policy.php ）
（概要） 現代世界が直面する複雑で困難な諸課題は、科学技術のみで解決を図ることは難しく、何よりも人間性への深い洞察に根ざした人文社会科学的知見を必要としています。そうした社会的要請に応え、人間性に対する鋭敏な感受性と現実社会に対する透徹した認識とを基盤に、国際社会の発展に積極的に貢献しうる、知性と行動力をもった人材の養成を目指します。 本学部では、上記の理念に共感し、①人間とその言語や文化、社会や歴史に対する関心を強く持ち、それらを探究するための広く深い知識と高度なスキルを習得しようとする人、そのうえでさらに、②合理的かつ批判的な思考に裏付けられた分析能力と判断力を身につけ、グローバル化した現代社会が直面する様々な課題の解決に主体的に取り組もうとする意思を持つ人、を求めています。

学部等名 教育学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>東北大学教育学部規程（抜粋）</p> <p>第 1 条の 2 本学部は、教育に関する学術的理論及びその応用を学際的かつ総合的見地から教授研究し、理論的基礎に基づく専門的知識及び技能を備えた人材を養成することを通じて、教育及び文化の発展に寄与することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>東北大学教育学部の教育目標に沿って設定された授業科目を履修し、卒業要件以上の単位を修得して、「学士（教育学）」の学位（ディプロマ）を取得して卒業する。本学部では以下のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を定め、卒業に際して学生が身につけるべき力を明示している。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教育に関する様々な専門領域の知識をふまえ、広い視野で教育を捉える力を身につけている。 ②教育における深い洞察力を身につけている。 ③自主的に課題を設定し、その課題解決に向けた企画・実践力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>東北大学教育学部は、教育に関する理論的基礎に支えられた専門的知識と技能を備え、現代社会が抱える教育の諸問題を総合的かつ体系的に把握し、その解決を具体的に推進しうる人材の育成を行うために、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教育に関する専門的知識と技能を獲得するための「講義」を設置している。 ②教育の今日的諸問題を把握する力を育成するために、様々な課題を検討する「演習」を設置している。 ③「講義」や「演習」での学びを基礎としつつ、具体的な課題解決を実体験する「実習」を設置している。 ④「講義」「演習」「実習」に関する学習成果の評価結果をもとに、カリキュラムの不断の見直しを行う。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 http://www.tnc.tohoku.ac.jp/admission_policy.php）</p>
<p>（概要）</p> <p>教育学部は、広い視野で教育をとらえ深く洞察する力、さらには自主的に課題を設定しその解決に向けて企画・実践する力を育成することを目指しています。このため、入学者の受入れにあたり、これらの教育目標に沿った学修の前提として必要な能力と資質を重視します。</p>

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
（概要） 東北大学法学部規程（抜粋） 第1条の2 本学部は、法学及び政治学の正確な知識を備え、広い視野から社会に潜在する諸問題の発見及び分析をし、並びにその解決に主体的に取り組むことにより、社会の発展に寄与することのできる人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
（概要） 東北大学法学部では、次に掲げる教育目的に従い、全学教育科目の単位を39単位以上及び専門教育科目の単位を90単位以上（うち私法・公法科目2単位以上、基礎法科目2単位以上及び政治学科目2単位以上）を修得した学生について、学士の学位を授与する。 ①教養ある国際市民としての素養を備え、法学・政治学の正確な基礎的知識を修得し、鋭い正義感と幅広い視野に基づき、社会に生起する問題を発見かつ分析し、利害の衝突を未然に防止し、あるいは紛争を解決することにより良き社会の実現に貢献する人材（法政ジェネラリスト）を養成する。 ②法学・政治学における学術研究または高度専門職（法政スペシャリスト）となるために共通の前提となる基礎的知識・素養と幅広い見識を有する人材を涵養する。 ③グローバル社会において、指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持ち、その基となる国際的視野とコミュニケーション能力を有する人材を輩出する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
（概要） 東北大学法学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた教育目的の実現を目指して、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。 1. 1. 学部開講の授業科目を内容に即して「基礎講義」・「基幹講義」・「展開講義」のカテゴリーに分け、段階的に配置することによって法学・政治学の基礎的な内容を無理なく体系的に修得させる。 2. (1)「基礎講義」とは、1・2年次生を対象に、法や政治の歴史的・思想的・社会的背景を学ぶことを目的とするもので、全学教育と連携しながら幅広い教養と視野を備えた人間の養成を図るものである。 (2)「基幹科目」とは、1年次後半から2・3年次にかけて、「基礎講義」の履修を前提として、法学・政治学の根幹をなす主要科目の修得を図るものである。 (3)「展開講義」とは、3・4年次において、法学・政治学について、より深い理解とさらに豊かな知見との修得を図るものである。 3. 2. 段階的に配置された講義科目と併行して、1年次から4年次までの学部4年間全般にわたって、「基礎」・「基幹」・「展開」の各講義をフォローアップするため、少人数で開かれる「演習」を多数開講する。 4. 3. 成績評価は、講義の場合は定期試験を中心に小テスト・受講態度・課題への取り組み等を総合して評価し、演習の場合は出席、発言の回数や質、課題への取り組み等を総合して評価する方法を原則とする。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 http://www.tnc.tohoku.ac.jp/admission_policy.php ）
（概要） 法学部は、アドヴァイザー制・演習などによる少人数教育の徹底を特徴とし、良き社会の構築に寄与する知的人材の育成を理念としています。法学部では、現代社会の直面する諸問題に関心を持ち、大学で養った法学的・政治学的知識と思考力を活かして、社会に貢献する意欲のある人を求めています。

学部等名 経済学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
（概要） 東北大学経済学部規程（抜粋） 第 1 条の 2 本学部は、経済学及び経営学の融合教育、少人数の演習を重視した教育並びに大学院との連携教育を行うことにより、広い基本的知識、深い専門的及び応用的知識並びに課題探求力を身に付けた、国際的視野を持つ指導的人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
（概要） 東北大学経済学部規程に定められた期間在学し、全学教育科目および専門科目の履修を通じて、本学部が教育理念・教育目標として掲げる経済に関する幅広く深い専門知識、課題探究力および国際的視野を身に付け、かつ、所定の単位を修得したと認められれば、卒業を認定し学士（経済学）の学位を授与する
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
（概要） 東北大学経済学部は、経済学と経営学の融合教育、少人数の演習ならびに大学院との連携教育を通じて、経済に関する幅広くかつ深い専門知識、課題探究力および国際的視野を備えた指導的人材を育成することを目的とする。この教育理念を実現するために、次のような方針に従ってカリキュラムを編成する。 ① 1 年次と 2 年次には、経済学および経営学に関する基本的知識を習得するための科目を配当する。 ② 3 年次以降には、経済学および経営学に関するより専門的・応用的知識を習得するための科目を配当する。さらに、大学院開講科目を一部履修可能とすることで、大学院教育との連携を図る。 ③ 課題探究力を培うため、3 年次と 4 年次に演習科目（ゼミナール）を設ける。少人数教育を重視する観点から、演習科目は必修とする。さらに、4 年次の演習科目では演習論文の作成を求める。 ④ 経済学と経営学の融合教育を目指す観点から、両分野の基礎的な科目を遍く履修することを求め、所属学科によらず卒業必要単位として認定する。 ⑤ 指導力を養うため、少人数教育、大学院との連携教育、インターンシップなどを活用する。 ⑥ 視野を国際的に広げるため、海外留学制度を整備し、留学先で履修した科目についても単位認定を行う。 ⑦ 学修の成果については、各科目のシラバスなどに記載された学修の到達目標および成績評価方法によって総合的に評価する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 http://www.tnc.tohoku.ac.jp/admission_policy.php ）
（概要） 経済学部は、経済学と経営学の融合教育を通じて、人間や社会の事象について知的探求能力を持ち、現代社会が直面する問題の解決に貢献できる指導的人間の養成を目指します。そのため、十分な基礎学力、論理的な思考能力、経済と社会への関心、社会への貢献意欲を持つ人を求めています。数理的分析手法を重視する近年の教育・研究の動向を踏まえて、人文社会科学的な方法論を軸に経済学・経営学を学ぶ学生を選抜する従来の文系入試に加え、自然科学的思考に強く数理的手法を駆使することができる学生を受け入れる理系入試を設けています。

学部等名 理学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
（概要） 東北大学理学部規程（抜粋） 第1条の2 本学部は、理学の基礎知識を修得し、大学院で高度な教育を受けるための能力を有する人材及び理学の基礎知識を活用し、社会の広い分野において主導的役割を果たすことができる人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
（概要） 理学各分野の基礎知識を習得し、大学院で高度な教育を受ける能力、また、理学の基礎知識を活用し、社会の広い分野において重要な役割を果たすことのできる能力を身につける。具体的には各学科の定める必修科目を含め、卒業要件を満たす単位数を修得すること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
（概要） 東北大学理学部では、ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成して、実施する。 ① 2年次の前半までは系別に教育を行い、人文・社会科学、自然科学、外国語を含む幅広い教養、また英語や情報処理活用の実践的な能力を身につけさせるとともに、高学年の専門教育を受けるために必要な理学の基礎教育を行う。2年次後半からは学科別に、講義・演習と実験及び実習を組み合わせより分化した専門教育を実施する。 ② 研究第一主義の理念に則り、3年次後半または4年次から研究室に所属して、第一線の研究の一端に触れ、授業内外での能動的な学修を行う能力を養成する。 ③ 学修成果の評価とその結果の個別のフィードバックや活用を通じて、学生の自律的学習力と主体的に研究を進めていく能力を涵養する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 http://www.tnc.tohoku.ac.jp/admission_policy.php ）
（概要） 理学とは自然界の仕組みを究明する最も基礎的な学問であり、素粒子、原子核、原子、分子等のミクロな世界から、生命、地球、宇宙等のマクロな世界に至るまで広範な領域を扱います。理学部は7つの学科と5つの附属研究施設を持つ我国有数の理学教育研究機関として、21世紀をリードする優れた研究者と、理学的素養を活かして多方面で活躍する指導的人材の育成を使命としています。理学に対する強い興味、柔軟な発想や思考力、問題を解決する高い能力を持ち、知的好奇心と向上心の旺盛な人の入学を望んでいます。

学部等名 医学部医学科
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
（概要） 東北大学医学部規程（抜粋） 第1条の2 本学部は、医学教育により、真理を探究する姿勢を育み、科学的根拠に基づく医学及び医療技術を実践し、病める人の立場になって優れた倫理観及び温かい人間性を持って対応のできる医師、医療技術者及び研究者を育成することを目的とする。 第2条の2 医学科は、教員と学生相互の協調により強固な教育基礎を構築し、医学の根源を解明する研究及び教育を実践し、豊かな人間性及び旺盛な探求心を育むことにより、人類の健康及び福祉に貢献することができる指導力のある高度専門職業人及び研究者を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
（概要） 医学部医学科では、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。 ①生命現象、人体構造並びに様々な疾患について、分子レベルから細胞・組織・器官・個体レベル、さらに地域・社会・国際レベルに及ぶ国際標準の知識を有している。未解明の事象に挑み創造的研究を行って先端領域を切り開き、成果を世界に発信する能力を有している。 ②優れた倫理観と暖かい人間性を備え、科学的根拠に基づく医療を実践する基本的能力を習得している。地域に密着して医療を実践するとともに、国際社会に医療貢献する能力を有している。 ③医療の実践と医学の研究を通して、我が国の医学研究、教育、医療を支えると伴に、ワールドクラスの研究の推進、新しい学問の創造、人類への貢献を担う能力を有している。多職種間の連携・協調、学際的研究交流等を円滑に行うコミュニケーション能力とチームを率いるリーダーシップの素養を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
（概要） 医学部医学科では、ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。 ①1、2年次は全学教育科目として幅広い一般教養科目と専門教育に活用可能な科目を提供する。1年次より専門教育科目を開始し、医療人、医学研究者として必要な基本的知識・技能・態度を6年間で段階的に修得させる。 ②研究第一の理念に則り、長期に亘り研究に従事し成果を発表する期間を設ける。医学研究PBL、基礎医学修練、高次臨床修練によって、医療リーダーや医学研究者として必要な能動学習・自己研鑽の技能と態度の涵養をはかる。 ③学習成果の適正な評価と個別フィードバックを行い、学習者の内省・自己啓発と能力開発を促進する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 http://www.tnc.tohoku.ac.jp/admission_policy.php ）
（概要） 医学部では医学、人類を中心とした生命科学に関する教育により、真理を探究する姿勢を育成します。高い倫理観と使命感を持って、科学的根拠に基づく臨床医学・医療技術を実践できる医療人及び新しい医学のフロンティアを開拓し問題を解決できる医学研究者を養成することを目的としています。 科学の分野に対する優れた理解力・学習能力とともに、生命現象や医療の問題への関心・探究心を持ち、医学や医療を通じて人類の福祉に貢献したいという目的意識があり、病める人の立場になって問題解決のできる人間性を備え、国際的視野で行動できる人を求めています。

学部等名 医学部保健学科									
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）									
<p>（概要）</p> <p>東北大学医学部規程（抜粋）</p> <p>第1条の2 本学部は、医学教育により、真理を探究する姿勢を育み、科学的根拠に基づく医学及び医療技術を実践し、病める人の立場になって優れた倫理観及び温かい人間性を持って対応のできる医師、医療技術者及び研究者を育成することを目的とする。</p> <p>第2条の2</p> <p>2 保健学科は、次の表の左欄に掲げる専攻の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げることを目的とする。</p>									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>専攻</th> <th>目的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護学専攻</td> <td>高い専門的知識及び豊かな人間性を持った看護師及び助産師並びに将来の指導者及び研究者として看護学を発展させることのできる人材の育成</td> </tr> <tr> <td>放射線技術科学専攻</td> <td>放射線技術科学を身に付けた指導力のある診療放射線技師並びに将来の指導者及び研究者として放射線技術科学を支え得る深い専門的知識及び幅広い教養を持った人間性豊かな人材の育成</td> </tr> <tr> <td>検査技術科学専攻</td> <td>高度な専門的知識を持ち、人の尊厳に深い理解を持つ医療人としての臨床検査技師並びに将来の指導者及び研究者として医療科学の分野を支え得る人材の育成</td> </tr> </tbody> </table>		専攻	目的	看護学専攻	高い専門的知識及び豊かな人間性を持った看護師及び助産師並びに将来の指導者及び研究者として看護学を発展させることのできる人材の育成	放射線技術科学専攻	放射線技術科学を身に付けた指導力のある診療放射線技師並びに将来の指導者及び研究者として放射線技術科学を支え得る深い専門的知識及び幅広い教養を持った人間性豊かな人材の育成	検査技術科学専攻	高度な専門的知識を持ち、人の尊厳に深い理解を持つ医療人としての臨床検査技師並びに将来の指導者及び研究者として医療科学の分野を支え得る人材の育成
専攻	目的								
看護学専攻	高い専門的知識及び豊かな人間性を持った看護師及び助産師並びに将来の指導者及び研究者として看護学を発展させることのできる人材の育成								
放射線技術科学専攻	放射線技術科学を身に付けた指導力のある診療放射線技師並びに将来の指導者及び研究者として放射線技術科学を支え得る深い専門的知識及び幅広い教養を持った人間性豊かな人材の育成								
検査技術科学専攻	高度な専門的知識を持ち、人の尊厳に深い理解を持つ医療人としての臨床検査技師並びに将来の指導者及び研究者として医療科学の分野を支え得る人材の育成								
卒業の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）									
<p>（概要）</p> <p>医学部保健学科では、次に掲げる目標を達成した学生に学士（看護学）または学士（保健学）を授与する。</p> <p>①高度化、複雑化する医療技術に的確に対処しうる科学的かつ深い専門知識を有している。</p> <p>②科学的根拠に基づく看護学・保健学・臨床医学及び医療技術を実践し、他の保健・医療等専門職と協働してチーム医療・チームケアの一員として参加する能力を有している。</p> <p>③冷静、緻密な総合的判断の元に、優れた倫理観と豊かな人間性及び社会的使命感を持って保健・医療に貢献する能力を有している。</p>									
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）									
<p>（概要）</p> <p>医学部保健学科は、ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。</p> <p>①幅広い教養を修得するための全学教育科目を学ぶとともに、専攻の専門の基礎となる科目による動機づけ、専門的知識や技術の習得、臨地実習を通じた応用力の向上をはかる。</p> <p>②ライフサイエンス、ヒューマンサイエンスを探究する姿勢を尊重し、授業・実習、特に卒業研究によって研究マインドを涵養し、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の実践力を備えた医療専門職業人・医療現場のリーダーとして活躍する能力を育成する。</p> <p>③学習成果の適正な評価と個別フィードバックを行い、学習者の内省・自己啓発と能力開発を促進する。</p>									
入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 http://www.tnc.tohoku.ac.jp/admission_policy.php ）									
<p>（概要）</p> <p>医学部では医学、人類を中心とした生命科学に関する教育により、真理を探究する姿勢を育成します。高い倫理観と使命感を持って、科学的根拠に基づく臨床医学・医療技術を実践できる医療人及び新しい医学のフロンティアを開拓し問題を解決できる医学研究者を養成することを目的としています。</p> <p>科学の分野に対する優れた理解力・学習能力とともに、生命現象や医療の問題への関心・探究心を持ち、医学や医療を通じて人類の福祉に貢献したいという目的意識があり、病める人の立場になって問題解決のできる人間性を備え、国際的視野で行動できる人を求めています。</p>									

学部等名 歯学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
（概要） 東北大学歯学部規程（抜粋） 第1条の2 本学部は、医療従事者、研究者及び教育者としての基本的素養である豊かな教養及び人間性並びに高い倫理観を備え、科学する心を持って知的探求を行い得る、考える歯科医師を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
（概要） 歯学部は、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。 （1）豊かな教養と人間性に裏付けられた知的探究を行う能力を有している。さらに、学際的な解決を要する現代的諸課題に対応するための多様な視点と知識を有し、生涯にわたって自己研鑽を積む姿勢を身に付けている。 （2）分子から個体レベルまでの様々な階層における人体の構造・機能と疾患および生体材料、共生微生物叢、医療環境・制度に関する知識を有機的に結合させ、歯科医療に応用できる能力を有している。 （3）研究過程等を実践することで「科学する心」を育み、研究への理解や志向を有している。 （4）「一口腔一単位」、「全人的歯科医療」を基盤とし、患者中心で、科学的根拠に基づく安全な歯科医療を実践する能力を有している。 （5）国際社会の多様性を理解し、歯科医師として、歯学教育、研究、医療、行政を担い、人類の健康・福祉に貢献する志向を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
（概要） 歯学部は、豊かな教養と人間性、高い倫理観と問題解決能力を備えた歯科医師、教育研究者を育成することを目標とし、以下の方針に基づき、カリキュラムを編成・実施する。 （1）入学直後の1年次には、歯学を勉学する意欲の動機付け（early motivation）と歯科医療現場の早期体験（early exposure）を支援する。 （2）1、2年次で学ぶ全学教育科目では、豊かな教養と人間性に裏付けられた知的探究を行う能力を涵養し、さらに、2年次以降に学ぶ専門教育科目との有機的な連携を重視する。 （3）2年次以降で学ぶ専門教育科目では、分子から個体レベルまでの様々な階層における人体の構造・機能と疾患および生体材料、共生微生物叢、医療環境・制度に関する知識を包括して習得できるよう、「臨学一体」を基盤として、科目間の有機的な連携を重視する。 （4）5年次で臨床実習に先立ち、基礎系の各分野に配属し、英文論文抄読から研究立案、実施、発表に至る一連の研究過程を経験する歯学基礎演習・基礎研究実習を通して「科学する心」を育み、次代の教育研究者への志向を涵養する。 （5）5、6年次で、「一口腔一単位」、「全人的歯科医療」を基盤とする診療参加型の臨床実習を通して、次代を担う歯科医師としての技能と態度を涵養する。 （6）1年次から6年次まで、海外短期留学を通して、世界の歯科医療現場を体験することにより、多様な価値観に基づく国際性を養う。 （7）各段階の学修の成果は、筆記試験、口頭試験、実技試験等により客観的に評価する。教育科目の特性に合わせ、小テスト、レポート、観察記録等を活用し、形成的評価を実施する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 http://www.tnc.tohoku.ac.jp/admission_policy.php ）
（概要） 歯学部の教育目標は、豊かな教養と人間性、高い倫理観と「科学する心」を備え、歯学・歯科医療の各分野で指導的立場となる歯科医師、教育研究者を育成することにあります。歯学・歯科医療の知識や技能を十分に修得できる基礎学力を備え、問題解決や知識追求に高い意欲を持ち、多様な価値観を受容する柔軟性、幅広い視野と豊かな感性を持ち、将来、医療に携わる者として相応しい人を求めています。

学部等名 薬学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>東北大学薬学部規程（抜粋）</p> <p>第1条の2 本学部は、種々の病気に対する有効かつ安全な医薬品の創製及び薬物治療に関する基礎教育を推進することにより、創薬科学の発展に寄与し得る人材及び薬の専門家として医療の一翼を担い得る人材を養成することを目的とする。</p> <p>第2条の2 創薬科学科は、創薬科学の研究者又は技術者になるための基礎的な知識及び技術を備えた人材を養成することを目的とする。</p> <p>2 薬学科は、研究心あふれる高度な薬剤師を養成することを目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>【創薬科学科】</p> <p>薬学部創薬科学科では、卒業までに全学教育および専門教育の履修を通して、教育理念に基づく以下の4つの目標を達成した学生に対し、学士（創薬科学）の学位を授与する。</p> <p>(1) 教養の涵養：専門の基礎となる自然科学分野のみならず幅広い教養を習得し、豊かな人間性と倫理観を備えるとともに、地域・社会に貢献する使命感をもち、優れたリーダーシップを発揮する能力を有している。</p> <p>(2) 専門の修養：生体の仕組みと疾患の原因を理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品の創製する能力、および医薬品に関する基礎的な学問を学び創薬科学の発展に寄与しうる能力を有している。</p> <p>(3) 国際感覚の鍛錬：総合的な英語力、コミュニケーション力、および国際感覚を習得し、成果を世界に発信する能力を有している。</p> <p>(4) 真理の探究：化学物質と生命の関わりの中において真理を探究し、新しい医薬品開発、および薬の適正使用に携わる研究、教育、衛生行政を支える研究心を備えている。</p> <p>【薬学科】</p> <p>薬学部薬学科では、卒業までに全学教育及び専門教育の履修を通して、教育理念に基づく以下の4つの目標を達成した学生に対し、学士（薬学）の学位を授与する。</p> <p>(1) 教養の涵養：薬学の基礎となる自然科学分野のみならず、幅広い教養を習得し豊かな人間性と倫理観を備えるとともに、地域・社会に貢献する使命感、優れたリーダーシップを発揮する能力を有している。</p> <p>(2) 専門の修養：生体の仕組みと疾患の原因を理解し、有効かつ安全な医薬品を創製する能力及び薬の専門家として医療を実践する能力を有している。</p> <p>(3) 国際感覚の鍛錬：総合的な英語力、コミュニケーション力及び国際感覚を習得し、成果を世界に発信する能力を有している。</p> <p>(4) 真理の探究：化学物質と生命の関わりの中において真理を探究し、薬学研究、教育、衛生行政を支える研究心とともに、薬の適正使用をはかる医療人としての使命感を備えている。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>【創薬科学科】</p> <p>1. 教育課程の編成の方針</p> <p>創薬科学科の教育課程は、ディプロマポリシーで掲げた「教育の涵養」、「専門の修養」、「国際感覚の鍛錬」および「真理の探究」の各学習目標を達成するため、全学教育科目、専門教育科目（基幹教育科目、展開教育科目、および研究者教育科目）および教職に関する科目から編成する。各科目で習得される知識、技能、態度および能力を明示したシラバスと、各科目および薬学教育モデルコアカリキュラムとの関係性をカリキュラムマップで可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促す。</p> <p>2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針</p> <p>(1) 教養の涵養：1年次および2年次において、基幹科目、展開科目（自然科学）、共通科目（外国語）、展開科目（人文科学、社会科学）を配置し、豊かな人間性と優れたリーダーシップを身につけるための教養を身につける。</p> <p>(2) 専門の修養：1年次から4年次にカリキュラムマップに配置された、物理系科目、化学系科目、生物学系科目、衛生系科目、薬理学系科目、薬剤学系科目および法規科目を講義、演習、実習を通し</p>

て、生体の仕組みと疾患の原因を理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品の創製および医薬品の基礎に関する学問を体系的に学び、創薬科学の発展に寄与しうる人となる素養を身につける。

(3) 国際感覚の鍛錬：薬学総合科目（薬学概論 1、薬学概論 2、専門薬科学実習、課題研究）を通して、高い英語の理解力のみならず国際的に発信し、コミュニケーションをはかるための総合的な英語力と国際感覚を身につける。

(4) 真理の探究：3 年次後期から 4 年次に研究室配属となり、研究者教育科目を通して、化学物質と生命の関わりの中において真理を探究し、新しい医薬品開発、および薬の適正使用に携わる研究、教育、衛生行政を支える研究心を身につける。

3. 学習成果の評価の方針

(1) 科目については、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価する。

(2) 卒業論文ならびに卒業時における資質に関して明確な基準を策定し、評価する。

(3) 教育課程を、学生の評価も含めて組織的、かつ定期的な評価を実施し、常に改善を続ける。

【薬学科】

1. 教育課程の編成の方針

薬学科の教育課程は、ディプロマポリシーで掲げた「教育の涵養」、「専門の修養」、「国際感覚の鍛錬」及び「真理の探究」の各学習目標を達成するため、全学教育科目、専門教育科目（基幹教育科目、発展教育科目、実務教育科目及び研究者教育科目）及び教職に関する科目から編成する。各科目で習得される知識、技能、態度及び能力を明示したシラバスと、各科目及び薬学教育モデルコアカリキュラムとの関係性をカリキュラムマップで可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促す。

2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針

(1) 教養の涵養：1 年次および 2 年次において、基幹科目、展開科目（自然科学）、共通科目（外国語）、展開科目（人文科学、社会科学）を配置し、豊かな人間性と優れたリーダーシップを身につけるための教養を身につける。

(2) 専門の修養：1 年次から 6 年次にカリキュラムマップに配置された、物理系科目、化学系科目、生物系科目、衛生系科目、薬理学系科目、薬剤学系科目、病態・薬物治療系科目、法規科目、薬学臨床科目を講義、演習、実習を通して、生体の仕組みと疾患の原因を理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品の創製および薬物治療に関する基礎的な学問を体系的に学び、薬学の発展に寄与しうる人および薬の専門家として医療の中で貢献できる人となれる素養を身につける。

(3) 国際感覚の鍛錬：薬学総合科目（薬学概論 1、薬学概論 2、臨床コミュニケーション学、薬学英語、課題研究）を通して、高い英語の理解力のみならず国際的に発信し、コミュニケーションをはかるための総合的な英語力と国際感覚を身につける。

(4) 真理の探究：3 年次後期から 6 年次に研究室配属となり、研究者教育科目を通して、化学物質と生命の関わりの中において真理を探究し、薬学研究、教育、衛生行政を支える研究心とともに、薬の適正使用をはかる医療人としての使命感を身につける。

3. 学習成果の評価の方針

(1) 科目については、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価する。

(2) 卒業論文ならびに卒業時における資質に関して明確な基準を策定し、評価する。

(3) 教育課程を、学生の評価も含めて組織的、かつ定期的な評価を実施し、常に改善を続ける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載

http://www.tnc.tohoku.ac.jp/admission_policy.php)

(概要)

薬学とは物質と生命の関わりを調べて新しい薬を創り出し、その医療への適用により健康の維持・増進や病気の治療を通じて人類社会の発展に貢献しようとする学問です。

薬学部では、有機化学と物理化学を基礎とする物質科学、生物化学と分子生物学を基礎とする生命科学、そして疾病の解析や薬物治療などから成る医療科学の 3 つを総合した教育と研究を行います。大学院での教育研究とあわせて、国際的な視野に立ち創薬科学の発展に寄与し得る人と、薬に関する高度な知識と倫理観を有し、適正な医薬品治療の実践と発展にリーダーシップを発揮し得る人材を育成することを目的としています。

知的探求心に溢れ、新しい薬の創製に関する研究・開発に強い興味をもつ人、あるいは薬の安全で最適な使用に強い意欲をもつ人、薬を通じて人類の健康増進に貢献したいという強い使命感に燃える人を求めています。

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>東北大学工学部規程（抜粋）</p> <p>第1条の2 本学部は、東北大学の理念及び教育目的に沿って、自然、人間及び社会についての深い知識及び国際社会の一員としての広い視野を持ち、互いに尊重し合い、自ら考えて行動する、創造性豊かな人材であり、かつ、工学分野において世界を先導する研究者又は技術者としての基礎を身に付け、我が国ひいては世界の文明及び産業を牽引し、人類の持続的発展に貢献することができる人材を育成することを教育目的とする。</p> <p>第1条の3 前条の教育目的を実現するため、本学部では、次に掲げる知識及び能力の「かん養」を教育目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 一 自然科学及び人文社会科学に関する幅広い教養及び基礎知識 二 工学共通の基礎知識及び各専門分野に関する基盤知識 三 多様な問題を分析し、論理的に解決するための基礎能力 四 語学力、コミュニケーション能力及びチームワーク能力 五 国際社会の一員として異なる文化を尊重し、理解する能力 六 研究者又は技術者として、人類及び社会に貢献する気概を持ち、自発的に学習し、自ら考え行動する能力
卒業の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>東北大学工学部は、世界を先導する研究者あるいは技術者を輩出することが社会から期待されている。このために、全学教育科目を所定の単位以上修得し、さらに工学部および所属する学科が定める所定の単位以上を修得することを通して、人類の持続的発展に貢献する自覚と展望、及び以下の知識と能力を身につけた学生に学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然や人間・社会についての深い理解 2. 工学共通の基礎知識と各専門分野に関する基盤知識 3. データや事実に基づく的確な分析能力と論理的思考能力 4. 他者と共同で課題に取り組むためのチームワーク能力 5. 国際的な場で通用する基礎的な外国語能力 6. 発表内容に関する討論を行うためのコミュニケーション能力 7. 国際社会の一員としての広い視野 8. 自ら考え行動する能力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>東北大学工学部は、ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、全学教育科目と専門教育科目をバランスよく配し、講義、演習、実験、実習等を適切に組み合わせたカリキュラムを策定する。</p> <p>教育課程の編成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然や人間・社会についての幅広い教養を身につけさせるために、自然科学及び人文社会科学に関する全学教育科目を配置する。 2. 工学と自然現象や人間社会との関わりを理解させるために、これらの学問分野に関する専門教育科目を配置する。 3. 社会の課題を解決するために必要となる、情報収集、分析、立案、実行、発表、及びチームワークの能力を育成する科目を配置する。 4. 国際社会の一員として異なる文化を理解する能力、語学・コミュニケーションの基礎能力を育成する科目を配置する。 5. 能動的に学習し、自律的に行動する能力を育成する科目を配置する。 <p>教育方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養を高め、工学の基礎知識と専門分野の基盤知識を修得し、主体性と実践力を身につけるために必要な教育を提供する。 2. 各科目の教授内容および修得すべき知識と能力を明示したシラバスを作成する。

<p>3. カリキュラムマップにより教育課程の全体像を把握させ、計画的な学習を促すとともに、ポートフォリオに学修過程を記録させ、達成度を自覚させる。</p> <p>4. 専門的な学修の集大成の実践例として卒業研修を行う。</p> <p>学修成果の評価</p> <p>1. 授業科目ごとに成績評価の基準及び方法を明示し、これに基づいて客観的に評価する。</p> <p>2. 学修レベル認定により、学修の到達度を多様な尺度で評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 http://www.tnc.tohoku.ac.jp/admission_policy.php）</p>
<p>（概要）</p> <p>工学部は、人間と自然に対する広い視野と深い知識を基盤とし、自ら考えて行動し 21 世紀の科学技術の発展と革新を担う、創造性豊かな人を育成することを教育目的としています。</p> <p>学業成績が優秀で、工学部での勉学に強い意欲を持つ人、発想が豊かで柔軟性に富む人、自然界、人間社会に深い興味を持ち、未知の世界に挑戦できる人、論理的なものごとを考えられる人、理論と実践を自ら粘り強く展開していける人、人間に対する深い思いやりを持ち、社会の中でリーダーシップを発揮できる人を求めています。</p>

<p>学部等名 農学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>東北大学農学部規程（抜粋）</p> <p>第 1 条の 2 本学部は、食料、健康及び環境に関する広範な知識及び技術を理解し、及び習得し、豊かな農学的思考を基礎として、資源生物の生産及び活用、食料の生産、健康増進、生物遺伝資源の保護並びに環境の保全及び修復に貢献することができる指導的かつ中核的な人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>東北大学農学部では、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与します。</p> <p>1. 農学を通じた社会的貢献</p> <p>① 食料、健康、環境に関する広範な知識と技術を理解・習得し、豊かな農学的思考と教養に基づく幅広い視野を持ち、社会に貢献できる能力を有している。</p> <p>② 高い倫理性を有し、科学技術の進展と、世界の持続的な社会の実現に寄与する能力がある。</p> <p>2. 国際的な教養と汎用的技能</p> <p>① 全学教育で得た自然科学、人文科学、社会科学の基本的な知識をもとに、専門教育で農学における先端的な研究内容を理解する。</p> <p>② グローバル社会において、指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持つとともに、そのための基礎能力を備えている。</p> <p>3. 専門分野の知識と研究能力</p> <p>① 食料、健康、環境に関する専門的知識を有し、研究実践に携わる能力を有する。</p> <p>② 日本語及び英語で適切に情報を収集し、それらを活用できる基礎的な語学力を身に付け、農学における先端的な研究内容を、説明できる能力を身に付けている。</p> <p>③ 自然科学分野、社会科学分野の高い知識と研究能力を基に、社会ニーズに応じて様々な問題の解決に主体的に取り組む社会のリーダーとなり得る。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf）</p>

<p>(概要)</p> <p>東北大学農学部では、ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施します。</p> <p>1. 教育課程の編成の方針</p> <p>① 人類の生存基盤である食料、健康、環境に関する基盤的知識を習得させる専門教育科目と幅広い知識や素養を育成する全学教育科目を有機的に関連させたカリキュラムを提供します。</p> <p>② 自律的・能動的な学習能力と国際的視野を持って活躍できる能力を育成するための、実践的な実習および研究遂行カリキュラムを提供します。</p> <p>2. 教育・学習方法に関する方針</p> <p>① 生物の本質を究明する独創的かつ萌芽的な基礎研究を推進し、それを発展させるための実習、特別研究を設定します。</p> <p>② グローバル社会において、指導的・中核的役割を果たす学生を育成するために、英語教育および留学生との共修授業を行います。</p> <p>③ 卒業時に到達すべき学習目標を各自が設定できるように、履修内容を明記したシラバスを提供し、各科目の関係を可視化したカリキュラムマップを策定します。</p> <p>④ 教育方法の開発と教育システムの整備を不断に進めます。</p> <p>3. 教育成果の評価の方針</p> <p>① シラバスに基づく授業、厳格な学習成果・成績評価、自己評価、授業評価アンケートのサイクルを教育改善に活用します。</p> <p>② 農学の理解を促進させる実践型教育を進めるため、学習成果の評価とその結果の活用を通じて、学生の自律的・能動的学習力を育成します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 http://www.tnc.tohoku.ac.jp/admission_policy.php）</p>
<p>(概要)</p> <p>農学部では、人類の生存や福祉の向上に密接した食料・健康・環境などの科学分野に関する独創的な基礎及び応用研究を推し進めています。この中で学生諸君が専門的な知識・技術や総合的思考力を身につけ、国際的視野を持って社会で活躍できる人に育つための教育を本学部は目指しています。従って、これらの科学分野の学問と研究に強い関心と勉強意欲を持ちつつ個々の能力を本学部で磨き、将来様々な問題の解決に主体的に取り組み、果敢に挑戦する社会のリーダーとなりうる人の入学を求めています。</p>

<p>学部等名 全学共通項目</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：入学者選抜要項、入学者募集要項）</p>
<p>(概要) 東北大学では、本学の理念のもとに、学士課程を通じて、</p> <p>① 専門分野に関する知識及び学問全体への興味関心と幅広い知識に基づく複眼的視野を有し、</p> <p>② 教養ある社会人としての素養を備え、専門分野特有の技能を生かして社会に貢献でき、</p> <p>③ グローバル社会において指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持ち、基礎能力を備える人を育成します。</p> <p>また学士課程教育では、幅広い知識や素養を育成する全学教育科目と専門分野の基盤的知識を習得させる専門教育科目を有機的に関連させたカリキュラムを提供し、授業内外での能動的な学習を推進するとともに、学生の自律的学習力を育成します。</p> <p>このため、東北大学は、上記の本学理念に共感し、</p> <p>① 21世紀の人類社会の課題に対し研究者として真剣に取り組み優れた貢献をしようとする志と</p> <p>② 豊かな学識とリーダーシップを備える職業人として社会の発展に優れた貢献をしようとする志を抱き、これを実現する固い意志と学問に対する強い好奇心を持つとともに、上記の本学学士課程教育を受けるにふさわしい高水準の学力を備えた学生を求めています。</p> <p>高水準の学力とは、具体的には、高等学校等で幅広い教科目を履修して優れた成績を収め、論理的思考力や問題発見力、分析解決能力、豊かな創造力、発想力、表現力、コミュニケーション能力を有することを指します。さらに倫理性や、学問の課題に主体的にリーダーシップを発揮しながら他の学生と協働して取り組むことができる態度を備えていることを求めます。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/002.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	10人	—					10人
大学院	—	602人	479人	65人	536人	47人	1729人
附属病院	—	10人	25人	78人	256人	61人	430人
附置研究所	—	137人	118人	15人	195人	6人	471人
その他	—	143人	116人	35人	208人	32人	534人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			677人				677人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法：公表方法：東北大学ホームページ（東北大学研究者紹介システム）にて公表 https://www.r-info.tohoku.ac.jp/						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
学務審議会において教育FDの推進・質保証を組織的・持続的に実施するため、本学における教育に関するFD活動の指針の策定、高度教養教育・学生支援機構のサポートなど、教育FDの全学実施体制を構築している。令和2年度の教育FD実施企画数は147、学部・研究科教員の教育FD受講率は約99%となり、本学教職員の教育・教育支援上の専門性の開発・向上を推進している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
	人	人	%	人	人	%	人	人
文学部	210	226	107.6	840	961	114.4	-	-
教育学部	70	74	105.7	280	301	107.5	-	-
法学部	160	165	103.1	640	702	109.7	-	-
経済学部	260	265	101.9	1,080	1,142	105.7	20	2
理学部	324	327	100.9	1,296	1,374	106.0	若干人	3
医学部医学科	116	117	100.9	772	814	105.4	-	-
医学部保健学科	144	148	102.8	576	580	100.7	-	-
歯学部	53	53	100.0	318	316	99.4	-	-
薬学部創薬科学科	60	84	105.0	360	326	107.5	-	-
薬学部薬学科	20				61		-	-
工学部	810	813	100.4	3,240	3,475	107.3	若干人	25
農学部	150	148	98.7	600	643	107.2	-	-

合計	2,377人	2,420人	101.8%	10,002人	10,695人	106.9%	20人	30人
(備考) 薬学部は3年次後期に学科決定（4年の課程:創薬科学科、6年の課程:薬学科）のため、入学時の入学定員超過率（「(b)/(a)」）及び学科別の収容定員充足率（「(d)/(c)」）は算出できない。								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	210人 (100%)	36人 (17.1%)	124人 (59.1%)	50人 (23.8%)
教育学部	75人 (100%)	14人 (18.7%)	58人 (77.3%)	3人 (4%)
法学部	175人 (100%)	27人 (15.4%)	126人 (72.0%)	22人 (12.6%)
経済学部	274人 (100%)	27人 (9.9%)	213人 (77.7%)	34人 (12.4%)
理学部	313人 (100%)	266人 (85%)	32人 (10.2%)	15人 (4.8%)
医学部（医学科）	123人 (100%)	0人 (0%)	0人 (%)	123人 (100%)
医学部（保健学科）	142人 (100%)	52人 (36.6%)	81人 (57%)	9人 (6.3%)
歯学部	52人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	52人 (100%)
薬学部（修業年限4年）	20人 (100%)	1人 (5%)	19人 (95%)	0人 (0%)
薬学部（修業年限6年）	66人 (100%)	64人 (97%)	2人 (3%)	0人 (0%)
工学部	818人 (100%)	727人 (88.9%)	68人 (8.3%)	23人 (2.8%)
農学部	163人 (100%)	119人 (73.0%)	33人 (20.3%)	11人 (6.8%)
合計	2,431人 (100%)	1,333人 (54.8%)	756人 (31.1%)	342人 (14.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 情報通信業、公務（地方公務）、医療・福祉、製造業、金融・保険業、公務（国家公務）等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>各学部の専門教育科目は各学部規程及び履修内規に、全学教育科目は全学教育科目等規程で定めている。</p> <p>東北大学文学部履修内規 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001781.html 東北大学教育学部履修内規 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001782.html 東北大学法学部履修内規 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001783.html 東北大学経済学部履修内規 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001784.html 東北大学理学部履修内規 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001785.html 東北大学医学部医学科履修内規 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001786.html 東北大学医学部保健学科履修内規 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001787.html 東北大学歯学部履修内規 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001788.html 東北大学薬学部履修内規 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001789.html 東北大学工学部授業科目及び単位数内規 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001790.html 東北大学農学部履修内規 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001791.html 東北大学全学教育科目等規程 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00000226.html</p> <p>授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画については、シラバスに記載している。 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/education/01/education0103/</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

単位の認定は、シラバスに明示された成績評価の方法に従って、筆記試験やレポート、平常点等複数の方法により行っている。

学部・大学院共通の成績評価基準として「成績評価区分」を定め、到達目標の達成水準と成績評価の相互関係を明確に示している。

成績表示	評価等 ()内は点数の区分および到達目標の達成水準における目安
AA	成績が特に優秀であるもの (90点～100点、到達目標を極めて優れた水準で達成している。)
A	成績が優秀であるもの (80点～89点、到達目標を優れた水準で達成している。)
B	成績が良好であるもの (70点～79点、到達目標を標準的な水準で達成している。)
C	成績が可であるもの (60～69点、到達目標を達成している。)
D	成績が不可であるもの (59点以下、到達目標に達していない。)
合格	成績が合格であるもの
認定	本学において修得した単位と認定したもの

卒業の認定に際しては、東北大学学部通則に定める修業年限期間（医学部医学科、歯学部、薬学部薬学科を除き4年、（医学部医学科、歯学部、薬学部薬学科は6年））在学し、かつ所定の授業科目を履修し、卒業に必要な単位を修得した者又は所定の授業科目を履修し、その試験に合格した者には、卒業を認め、学士の学位を授与している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)	
文学部	人文社会学科	126 単位	有	単位	
教育学部	教育科学科	125 単位	有	単位	
法学部	法学科	129 単位	有	単位	
経済学部	経済学科	125 単位	有	単位	
	経営学科	125 単位	有	単位	
理学部	数学科	124 単位	有	単位	
	物理学科	124 単位	有	単位	
	宇宙地球物理学科	124 単位	有	単位	
	化学科	124 単位	有	単位	
	地圏環境科学科	124 単位	有	単位	
	地球惑星物質科学科	124 単位	有	単位	
医学部	生物学科	124 単位	有	単位	
	医学科	201 単位	有	単位	
	保健学科	看護学専攻	128 単位	有	単位
		放射線技術科学専攻	127 単位	有	単位
検査技術科学専攻		127 単位	有	単位	
歯学部	歯学科	201 単位	有	単位	
薬学部	創薬科学科	143 単位	有	単位	

	薬学科	203 単位	有	単位
工学部	機械知能・航空工学科	130 単位	有	単位
	電気情報物理工学科	124 単位	有	単位
	化学・バイオ工学科	127 単位	有	単位
	材料科学総合学科	130 単位	有	単位
	建築社会環境工学科	125 単位	有	単位
農学部	生物生産科学科	134 単位	有	単位
	応用生物化学科	134 単位	有	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/about/04/about0402 （総長賞受賞者、藤野先生記念奨励賞受賞者） https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/studentlife/09/studentlife0901/ （学生生活調査）		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：東北大学ホームページへの掲載
<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/010.pdf>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部	全学科	535,800 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

【学習支援センターによるサポート】

主に学部1・2年生（全学教育段階）の学びをサポートする組織として学習支援センターを設置しており、センターでは「SLA（エスエルエー）」と呼ばれる学部3年生から大学院生までの幅広い層の先輩学生たちが、学生同士の学び合いの力を活かして、リメディアル支援からレベルアップ支援まで、幅広い学習サポート活動を行っている。

【各学部における特色ある修学支援体制】

○文学部

- (1) 入学者を15クラスに分け、各クラスにクラスアドバイザー教員（全15名）を配置して、メール等を利用し新入生に対する少人数のきめ細かな修学指導を行っている。
- (2) 授業、学生生活等（修学全般）に関する学生からの質問、相談を受付ける窓口として、学生相談委員会を設置し、相談員を4名配置している。相談は、学生相談窓口アドレスへのメールで受付ける。相談メールはメーリングリストを通じて、自動的に委員全員に回覧し対応を検討する。

○教育学部

- (1) 学年を5グループ（クラス）に班編制し、クラスアドバイザー（教員）を配置している。また、2～3セメスターのオリエンテーション時にクラスアドバイザーは学生と面談を実施している。
- (2) 事前に学生の成績表をクラスアドバイザーに送付し、修得単位数が少ない学生に関しては、クラスアドバイザーが個別に指導する。

○法学部

アドバイザー教員を学生一人一人に配置し、メールを利用して履修相談等の対応を行っている。

○経済学部

- (1) 学生相談室など学生の修学上の問題を発見・解決を図るための仕組みを整備している
- (2) 卒業に必要な残り単位数（科目）を、表計算ソフトで学生自身が確認できる卒業判定シート（ファイル）を提供している

○理学部

- (1) キャンパスライフ支援室（相談員2名）に相談窓口を設置している。
- (2) TAによる修学指導を構築しており、成績不振学生、学業に対し積極的な学生、大学院入試対策など学習室利用学生への学習支援を実施している。

○医学部医学科

アドバイザー教授を配置し、修学指導を行っている。

○医学部保健学科

- (1) チューター制を採用し、オリエンテーション時にチューターとその担当学生との面談を実施し、連絡体制を整えている。
- (2) キャリア開発支援に関した情報提供と相談を受ける役割の教員がおり、進路希望などの調査も行い、進路に応じた相談に応じている。

○歯学部

- (1) 入学時から卒業時までの6年間を同一人の学年担当教務委員が修学支援を担当し、学部教務委員会等と連携して、継続的な修学支援を行っている。
- (2) 6年次学生を少人数グループに分けて、各グループにチューター（教員）及びサブチューター（院生）を配置し、きめ細やかな指導を行っている。

○薬学部

(1) セメスター毎の単位修得状況確認および授業の出席状況確認に努め、欠席が目立つ学生および単位修得状況が芳しくない学生については、学部教務委員長または学年担任が、教務係員とともに面談を実施している。

(2) 学部1・2年生に対しては、入学時に決定した仮配属分野を通じて、ピアサポーターによる支援および懇談を実施している。

○工学部

(1) 各系に学生支援室を設け、相談員として本研究科等に在籍していた教員1名を配置し、相談希望者にはメールにて相談受付、時間調整のうえ、修学上及び生活上の相談に電話対応をしている。

(2) 平成15年度から「学習等達成度記録簿（現名称：自己評価記録簿）」を導入し、学生が学習の歩みや現在の到達状況、次に取り組むべきもの（目標）を把握するのに役立っている。なお、年2回、学生が自己評価記録簿へ記載した事項は、研究室配属による指導教員決定までの間はアドバイザー教員が、研究室配属後は指導教員が、学生と面談をしながら確認し、適切な指導を行えるよう制度化している。

○農学部

学部新生はクラス担任・副担任、学部2・3年次生はコース代表、学部4年次生は所属分野の教員がそれぞれ修学指導を行っている。

【入学科・授業料免除、奨学金】

経済的に困窮する学生に対し、入学科及び授業料免除制度による経済的支援を行っている。さらに近年増加傾向にある大規模災害により被災した学生を対象とした入学科・授業料免除制度を整備するとともに、学部生のうち、特に支援が必要な学生に対する返済不要の給付奨学金の支給や東日本大震災の被災学生を対象とした給付奨学金の支給などを行っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

キャリア支援センターでは全学の学生のキャリア・就職支援を行っており、キャリア関連の授業やフェア（学内合同企業説明会、インターンシップフェア）、各種セミナー・ワークショップなど年間を通じて多様なキャリア支援プログラムを提供している。その他、学生の進路・就職に関する個別相談を行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

保健管理センターでは学生の健康診断や健康相談及び診療を行っている。学生相談・特別支援センターでは、学生が大学生活を送る上での様々な悩みを相談できる学生相談所、障害のある学生の相談・支援を行っている特別支援室がある。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F104110100856
学校名	東北大学
設置者名	国立大学法人東北大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		622人	622人	676人
内 訳	第Ⅰ区分	325人	343人	
	第Ⅱ区分	174人	176人	
	第Ⅲ区分	123人	103人	
家計急変による支援対象者（年間）				8人
合計（年間）				684人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	10人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	2人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	9人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	14人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	1人		
GPA等が下位4分の1	109人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	20人		
計	111人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。